



2011.1

2011年スタートにあたりご挨拶申し上げます

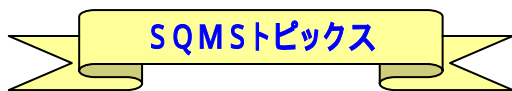
NPO法人サッポロQMS 理事長 白尾 宣彦

SQMS会員の皆様には日頃より当法人の運営にご協力いただき大変ありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

SQMSも設立より7年目を迎えることになりました。この間、公共事業を巡る環境は大きく変わりました。建設投資額が約半分になってしまいました。新政権は必要なインフラは作るが不必要なインフラは作らないと言っています。至極当たり前のことです。しかし、必要かどうかを判断する基準がどうも納得がいきません。また、公共事業が少なくなるとその仕事を適正に配分するために入札制度に手をつけられます。毎年のように変わる入札方式に皆さんも壁壁していると思います。公共事業はまだ減るのでしょうか。欧米先進国の例を見ますとこれ以上減額すると社会基盤を維持できなくなると推測されます。我が国の建設投資はGDPの6%程度になりました。欧米では4~6%が一般的です。社会基盤整備の遅れている日本では少ない投資額ですが現状を担保できれば幸いです。

さて、SQMSもこの厳しい環境の影響を受けています。登録累計で72社に達しましたが事業環境の悪化等で辞退をする企業が増えてきて現在の認証企業は63社です。今年中に更なる新規申請企業の発掘に努力しているところです。厳しい環境のなかQMSのメリットは何処にあるのでしょうか。私の会社はISOを取り入れています。先日の更新審査で審査員から経営者としてISOをどのように使っていますかの質問がありました。私は会社の業務全般が品質に影響を与えらるるとして品質管理はもとより原価管理、安全管理、環境配慮についてもISOの手法で管理しています。原価管理を厳正にやり適正な利益を挙げ、社員に還元する。その事で社員のモチベーションが上がり良い仕事をしてくれる。こんな使い方です。

札幌市も今年度は成績重視型の入札を大幅に増やしてきました。先ほど述べたように少ない仕事を適正に配分する方法としては公平な方式です。皆さんご承知のようにQMS認証企業の工事成績の向上は明確です。今年度も成績向上に向け技術研修会を開催いたします。各社とも厳しい経営を余儀なくされていると思いますがQMSを有効に使い活路を見いだしていきたいと思います。



サッポロQMSの広報活動の一環として講師派遣を積極的に行い認知度の拡大に努めました。

- ・札幌市職員研修会 建築部(11月)、水道局(1月)
- ・中小建設業協会(5月)
- ・二水会(5月)
- ・大成建設協力企業会(9月)

定例のサッポロQMS主催技術研修会を開催しました。(1月)

平成21年度札幌市土木部所管工事優秀施工業者表彰受賞の北創丸杉建設(株)角川社長による事例発表があり、高評価を受けるための施工管理ポイントについて社長ご自身の経験を基に披露して頂きました。

また、市工事管理室より堀検査担当係長をお招きし、成績評定について発注側の視点に立った考え方、ポイントおよび平成23年度評定改訂について講話を頂きました。

サッポロQMSからも、判定委員会平間委員長から日常発生するエラーに対する品質管理上の捉え方について講演しました。

講演テーマに皆様の関心が高かったようで、満席に近い参加者となり好評を博しました。

成績重視型入札方式が平成22年度は飛躍的に伸びました。

平成22年度上半期の成績重視型入札方式による工事発注件数が対前年度同期比で2倍以上の伸びとなっており、平成23年度も同傾向が予想されます。

受注競争の激化するなかで、発注側の品質を重視する姿勢は益々強まるものと思われませんが、認証企業の皆様にはQMSを管理ツールとしてより一層質向上に努力されますようお願いいたします。

認証取得の動き

平成22年度以降現在まで新たに認証取得された企業は次の3社です。

- ・丸功協栄工業株式会社 (土木・上水道設備工事)
- ・ソリトンコム川上株式会社 (土木・舗装工事)
- ・株式会社第一エンジニアリング (建築物施設保守管理)

また、現在認証取得に向けて準備中の企業は3社です。

昨今の事業環境悪化等による認証辞退企業も出ており、全体の認証企業数は現在63社と伸び悩んでおりますが、今後も認証取得企業の拡大に努めてまいります。

皆様にも是非企業紹介等、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。